

平成17年9月29日
原子力安全対策課
(17-65)
<13時30分諸発表>

美浜発電所1号機の定期検査状況について (加圧器安全弁出口温度の上昇)

このことについて、関西電力株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

美浜発電所1号機(加圧水型軽水炉; 定格電気出力34.0万kW)は、調整運転中(電気出力約100%)の9月17日、B-湿分分離加熱器加熱蒸気ドレン管温度計管台溶接部からの漏えいのため、同日、電気出力を約50%として点検調査した。その結果、漏えいの原因は、今定期検査で当該溶接部に実施した手直し溶接が原因と推定されたため、同様の手直し溶接を行ったA-湿分分離加熱器も補修することとした。

このため、本日夕刻より出力降下を開始し、原子炉を停止してこれらの対策工事を実施する予定である。

[平成17年9月28日記者発表済み]

このようななか、本日4時32分、原子炉冷却材系統の加圧器に設置されているB安全弁*の出口温度(通常約52℃)の上昇を示す注意警報(設定値60.3℃)が発信し、4時50分には「加圧器逃がし弁・安全弁出口温度高」警報(設定値77℃)が発信した。直ちに、加圧器逃がし弁および安全弁の出口温度を確認した結果、B安全弁の出口温度が約90℃に上昇していた。

これらのことから、B安全弁のシート面から漏れが発生しているものと推定されるが、現状、加圧器の水位や圧力、安全弁出口側の蒸気を回収する加圧器逃がしタンクの水位、圧力、温度等に変化が見られないことから、シート漏れの程度はわずかと判断され、今後、監視強化を継続する。

なお、本事象による環境への放射能の影響はない。

美浜発電所1号機は、計画通り、本日夕刻から出力降下を開始し、原子炉を停止し、湿分分離加熱器管台溶接部の補修と加圧器安全弁の点検を行う。

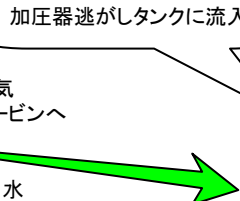
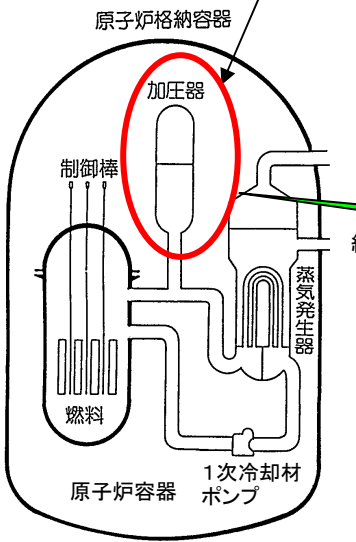
*: 加圧器と加圧器逃がしタンクとの間に設置され、加圧器圧力(通常値: 約15.4MPa)が高くなった時に、自動的に開放し加圧器逃しタンクに圧力を逃す。加圧器圧力が約16.1MPa以上になった時に開放する「加圧器逃がし弁」2台と、そのバックアップとして約17.2MPa以上になった時に開放する「加圧器安全弁」2台がある。

問い合わせ先(担当: 三木)
内線2354・直通0776(20)0314

美浜発電所1号機の加圧器安全弁出口温度上昇について

発生場所

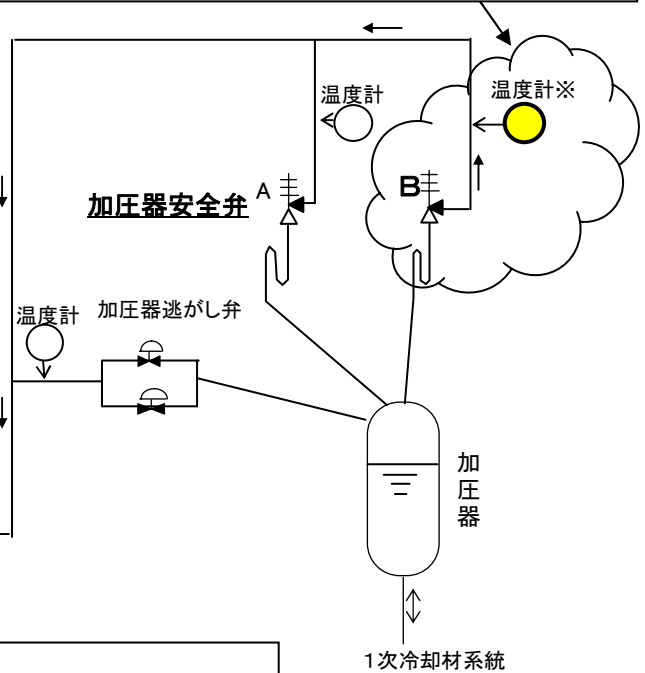
発生場所



冷却材ドレンポンプへ

【温度変化状況】

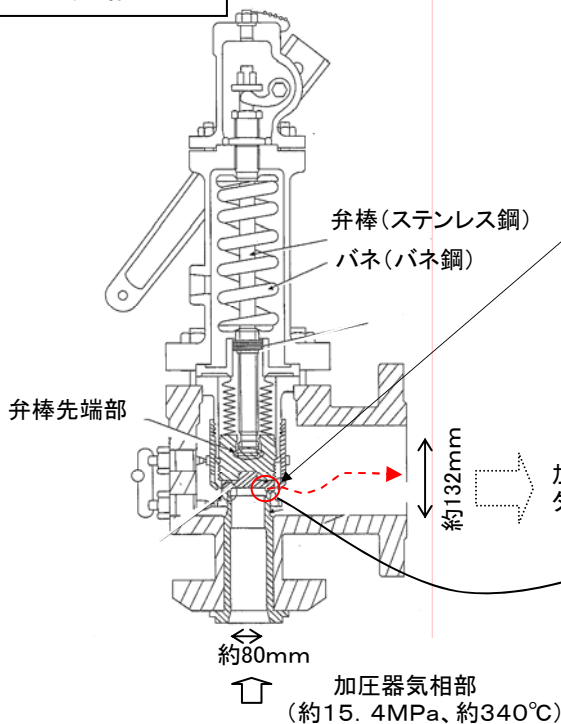
- 「加圧器逃がし弁・安全弁出口温度高」警報※発信: 77°C
→ 現在約90°C前後で推移している。
- 温度計を点検した結果、異常は認められなかった。



【加圧器逃がしタンク】

- 水位、圧力に変動はなく、通常値で安定している。
- ・水位: 約80%、圧力: 約0.02MPa、温度: 約33°C

加圧器安全弁構造図



[加圧器安全弁仕様]

吹出圧力設定値: 約17.2MPa

シート漏れしていると考えられる

